

日本労働者協同組合連合会総会アピール

（ 中・高年雇用・福祉事業団は、5月23日～24日長野県松本市で全国総会を開き、名称も「日本労働者協同組合連合会」に変更し、名実共に労働者協同組合として本格的に運動を確立することを決めました。（詳細は次号）

事業団で働くすべての仲間のみなさん！

ご協力いただいているすべてのみなさん！

事業団全国連合会は、昨年10月に東京で開かれたICA（国際協同組合同盟）大会において、正式に加盟を承認され、7億人の国際協同組合運動組織の一員に加わりました。

そして、本総会において、名称を「日本労働者協同組合連合会」に変更し、すべての加盟事業団が名実ともに労働者協同組合に成長発展することを誓いあいました。

仲間のみなさん！

事業団は、法律も制度もない中から、「7つの原則」を自分達で定め、「よい仕事」を通じすべての人の働く権利の実現を追求してきました。

ICA加盟は、このひたむきな努力が世界の評価を得たものに他なりません。

ICA加盟は、日本のさまざまな新しい「協同」の動きをはげまし、生協、農協などの先輩協同組合とのつながりを大きく広げています。

政府・労働者や自治体も真剣に労働者協同組合に対応し始めています。

何よりも、労働者協同組合の運動が「グループ」に広がり、生産活動を含めた本格的な展開を開始しようとしています。国労闘争団においても労働者協同組合が有力な流れになっています。

映画「病院で死ぬということ」は、人間の尊厳ある生とそれを支える社会のあり方を映像によって訴え、高齢者協同組合の提唱と結んだその上映運動は、多くの新しい人々との出会いをつくり出し、仲間の確信を深めました。

仲間のみなさん！

今、日本では、「繁栄」をはこってきた大企業が、「バブル経済」の崩壊と世界同時不況の中で、大幅な人員削減に乗り出しています。この不況は、資本主義経済を支えてきた大量生産・大量消費の終わりを告げるものでもあると言われてしています。

他方では年間20兆円を超す私たちの税金が、巨大な公共事業を通じて「政官財」の特権者たちに食い物にされていることを、「金丸事件」がこの上もなく明らかにしました。

カンボジアの経済社会をどのように再建すべきかという、協力の方向を示さないまま「軍事貢献」が一人歩きを始め、小選挙区制導入、憲法改悪の動きとなってはね返っています。アジアの人々は、経済力と軍事力による日本の支配に警戒を強めています。

仲間のみなさん！

金儲け第一の経済と政治は、発展の方向を見失い、腐敗を深め、破局への危険な衝動を強めています。そのことは同時に、多くの人々の中に経済と政治の新しいあり方への渴望をもちたしています。

労働者協同組合は働く者自身の仕事おこし、地域づくりの努力を基礎に、「協同」の新しい方向を示していこうではありませんか。

第1次中期計画4年度に全力をあげ、不況に立ち向かって労働者協同組合を大きく成長させよう！労働者協同組合を日本のすみずみに設立し、労働者協同組合グループの流れを全国と地域でつくりだそう！

映画や協同集会のとりくみを通じて、地域の多くの人々とのつながりを広げ、高齢者協同組合を全国で発達させよう！

「全組員経営」を合言葉に、仲間の一人一人が、労働者協同組合と社会の主人公に成長していこう！
協同の新しい生き方と働き方を創造し、日本と世界の人々に「人類の希望と未来」を事実によって示していこう！

1993年5月24日

日本労働者協同組合連合会 第14回定期全国総会

〈協同のひろば〉 韓国労働者協同組合の現状と可能性を探る

韓国訪問・交流報告

菅野 正純（協同総合研究所・専務理事）

韓国・半月（バン・ウォル）信用協同組合常任顧問、信協ハンウリ（直訳すると「一つの私たち」）生活協同組合理事長の李健雨氏（協同総合研究所会員）の招待で、4月17～20日、韓国を訪問し、韓国の労働組合運動、協同組合運動の活動家と交流するとともに、労働者協同組合の若き研究者・金成悟（キム・ソンオー）氏と会い、彼の案内で生まれつつある韓国の労働者協同組合の現場を訪問することができました。

あわせて、ソウルや近郊の安山工業団地を回って、都市問題、環境・公害問題が深刻な事態を迎えつつあることを実感しました。また協同組合の人々とともに民俗村を見学したり、食事をともにしたり、家に招かれて家庭料理をごちそうになる中で、つよい人間的・文化的な親近感を覚えました。

ここでは、労働者協同組合をめぐる交流についてのみ、簡単に報告します。

労働組合運動活動家との交流

安山市（ソウル、金浦空港からそれぞれ1時間）近郊にある半月信用協同組合の事務所で、4月18日（日曜日）に労働組合運動の活動家、および生協職員に向けて、日本の労働者協同組合の実践と考え方について報告しました。

参加者は、「経済正義実践市民連合」安山支部の権泰根、金賢東氏（彼らはともに、87年民主化抗争を担った学生運動の活動家で、その後、労働現場に入って労働組合の組織化をすすめている人

たちである）、「カトリック労働司牧」のチャン・ヤン、桂仁仙夫妻、およびハンウリ生協職員の計10名。

韓国でも、景気後退、倒産、解雇の中で、労働組合運動が困難な時期を迎え、とりわけ中小企業の多い安山市では、不安定就労が広がり、仕事確保が重点課題になりつつあるとのことでした。

私の報告も、一方で失業・不安定就労の増大と、他方での労働の疎外、資本主義の企業活動による人類的な危機の深刻化の中で、労働者階級が労働組合とともに労働者協同組合をあわせ持つことの意義を強調しました。

「貧しい労働者が多い中で資金をどう積み立てればよいのか」という質問が出されました。根本的には、モンドラゴンのような協同組合金融が望ましいわけですが、それがすぐに望めないとすれば、労働者自身が働く中で出資を積み立てていくとともに、一つの事業所の成果と資金を次の事業展開に用いる連帯の観点が必要ではないか、むしろそこから労働者協同組合らしい運動が展開されるのではないか、というのが私の答でした。

翌々日、李理事長の家に参加者から「やはり労働者協同組合をつくっていこう」という電話があったそうで、日曜日の交流は、いちおう成果があったようです。

金成悟氏との出会い

4月19日には、アメリカの社会学者ホワイト氏の『メイキング・モンドラゴン』（日本語訳『モ